



# 盛岡を発掘する

—平成24年度調査速報—



## つじやしき 辻屋敷遺跡 第1次調査（下鹿妻）

今年度は、平安時代の竪穴住居跡を1棟調査しました。竪穴住居跡は、一辺約6m四方で西にカマドが構築され、土師器の甕や坏が出土しています。また、南側にもう1棟竪穴住居跡を検出しましたが、建築範囲外のため、確認することとどめました。周辺の畑などにも土器が散乱していることから、平安時代の集落域が広がっていたと考えられます。

これまでに当遺跡では本格的な調査は行われていませんでしたが、初めて遺構が確認され、これまで不明であった遺跡の様相が判明しました。



竪穴住居跡

## やもり 矢盛遺跡 第31次調査（飯岡新田）

これまでの調査で、縄文時代の陥し穴や、平安時代の集落跡、16世紀を中心とした中世の居館跡を含む集落跡など、多岐にわたる遺構を検出しています。

第31次調査区は第10～13次調査で確認された中世の居館跡の南側に位置します。調査の結果、集落を構成する掘立柱建物跡18棟、柱列跡9基、土坑16基、竪穴建物跡2棟、堀跡1条、溝跡11条、井戸跡1基、道路跡を検出しました。掘立柱建物跡の配置は調査区の西部・中央部・東部と三つのまとまりがみられ、掘立柱建物跡が重複しており、複数の時期にわたる建物群の変遷が考えられます。

この地域の水田開発などに関わった領主の居館の構造と、領主に従った人々の集落形態が明らかになりつつあります。



調査区中央部 掘立柱建物跡群



# ほそ や ち 細谷地遺跡

## 第31・32次調査（向中野）

これまでの調査では、奈良～平安時代の集落跡がみつっています。今回は、第31次Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ区、第32次Ⅰ・Ⅱ区の調査を行いました。

第31次Ⅰ区・32次Ⅰ区調査では、奈良～平安時代の竪穴住居跡24棟、竪穴建物跡1棟、土坑6基、溝跡4条を検出しました。竪穴住居跡は一边約3～4mで、奈良時代は北西に、平安時代は南東にカマドをもつ傾向がみられます。竪穴住居跡からは、ほぼ完形の片口の短頸壺や、刻書土器、墨書土器、直径約20cmの高台付埴などが出土しています。



竪穴住居跡



短頸壺

# し せき し わ じょう あと 史跡志波城跡

## 第107次調査（中太田）

志波城は陸奥国最北端にして最大規模の城柵として知られています。志波城跡の外郭は840m四方の築地塀(土を突き固めて作った土塀)と、928m四方の土塁を伴う外大溝により二重に区画されており、城内中央には一边150m四方を築地塀で囲った政庁が配置されていました。

第107次調査は、外郭西辺北部の調査を行い、外郭西辺築地線跡、外郭西辺築地外溝跡、外郭西辺外大溝跡、土塁跡を検出しました。精査の結果、洪水堆積層と考えられる厚い褐色シルト層を確認し、これらの層位の下から十和田a火山灰(915年降下)である灰白色粉状パミスが多く混じる土層を確認しました。これらはそれぞれ、中世初頭頃の洪水と、十和田カルデラ火山の大噴火という、当時を襲った大災害の痕跡と推測されます。



洪水堆積層・十和田a火山灰検出状況

### 特別速報展

平成24年度沿岸部発掘調査支援

みやの かいづか

## 宮野貝塚

第18次調査（大船渡市）

当市が派遣している職員が担当した宮野貝塚の発掘調査資料の一部を展示しています。

宮野貝塚は大船渡市三陸町綾里地内に所在する縄文時代前期から弥生時代前期にかけての遺跡で、貝塚の存在は昭和3年(1928)、小田島祿郎氏によって公表され、昭和15年(1940)に当時、公爵であった慶應大学の大山柏氏らによって初めて発掘調査が行われました。

今回の調査は住宅建築に先立つ事前確認調査として実施され、縄文時代後期の集石や土坑を検出し、さらに集石の下層からは中期の竪穴住居跡も確認されました。また、東側調査区からは大量の弥生時代前期の土器も出土し、集落が長い期間に渡って営まれていたことが窺われます。



調査区全景

平成25年2月8日(金)～

5月19日(日)

盛岡市 遺跡の学び館

〒020-0866 盛岡市本宮字荒屋13-1  
TEL 019-635-6600 FAX 019-635-6605

### ◆平成24年度調査成果報告会◆

■日時 平成25年3月3日(日) 13:30～15:00

■会場 盛岡市遺跡の学び館 研修室(定員80名)

※入場無料、直接会場へどうぞ。